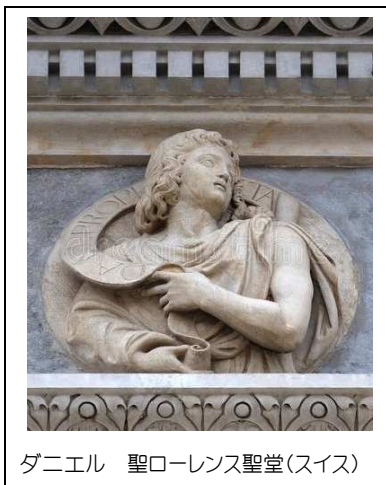


バビロンの王ネブカドネツアル(治世605-562BC)は、父の後を継ぎ、アッシリアの属国であった長年の屈辱を完全に晴らし、シリア、フェニキア地方を征服し、エジプトへも攻撃をかけ、世界の覇者となりました。エジプトの粘土板に戦争の記録が記されています。円筒型碑文(大英博物館蔵)には美しい都を再建し、運河、水路、寺院、貯水池を整備した記録が残されています。メソポタミアでさまざまな神々が崇められていましたが、世界と人間の創造主であり、植物、審判、呪術を司るマルドゥク(別名ベール)が中心的な神であり、その僕は竜とされていました。ネブカドネツアルは神々の神殿の宝物倉にエルサレム神殿から奪った祭具類を納めさせています。

しかしネブカドネツアルは神々への信頼はもっていませんでした。即位後 2 年目に(ダニエルはまだ捕囚になっていないはずですが)、ネブカドネツアルは不吉な予感を覚える夢を見て、悶々と苦しみ、占い師、祈祷師、まじない師、側近、賢者を呼び、自分が見た夢とその意味を告げよと命じました。賢者は夢の内容を話してくれれば、解釈を申しますと答えましたが、王は怒り、賢者、知者を皆殺しにするように命令しました。ダニエルと三人の友人たちもその中にいました。ダニエルは王の暴虐な命令を避けるために「夢を解く」と申し出ました。ダニエルは家に帰り、仲間のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明した。そして、他のバビロンの賢者と共に殺されることのないよう、天の神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈った。すると、夜の幻によってその秘密がダニエルに明かされた。ダニエルは天の神をたたえ…わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。知恵と力をわたしに授け/今、願いをかなえ/王の望むことを知らせてくださいました。(2:17) と感謝の祈りを捧げました。



ダニエルは王の前に立ち、王の夢の秘密は、「秘密を明かす天の神がおられ、その神が将来何事が起こるのかを王に知らせて下さった。神がその秘密をダニエルに明かされたのは、ダニエルの知恵によるのではなく、神が王を助けるためであった」と前置きをしてから、夢の内容を話しました。

王が見たものは頭が純金、上半身が銀、下半身が青銅、脛が鉄、足が鉄と陶土の巨大な輝く像であった。ところが人手によらずに切り出された一つの石が、像の足を打ち砕き、すべてが砕け、風に吹き払われ、跡形もなくなった。その石は大きな山となり、全地に広がった、と話しました。続いて、ダニエルは夢の解釈をし、金の頭が王の王で

あるネブカドネツアル、その後次々と王国が興るが、劣った銀の王国、全地を支配する青銅の王国、破壊を重ねる鉄の王国、最後に鉄のような強い部分と陶土のような脆い部分がある分裂した王国が興る、しかし、この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます。山から人手によらず切り出された石が、鉄、青銅、陶土、銀、金を打つのを御覧になりましたが、それによって、偉大な神は引き続き起こることを王様にお知らせになったのです。この夢は確かであり、解釈もまちがいきません。(2:44) と断言しました。歴史が繰り返されるが、神はそれぞれの時代に、神のおられる山から、神の霊によって生まれる人手によらず切り出された石により、一つの国を興し、それが永遠に続くと言います。絶対者として君臨していたネブカドネツアルは滅亡を恐れていたに違いありません。けれどもダニエルの王への恭順な姿勢、理性的な歴史への洞察、そして、「天の神」への絶対的な信仰を見て、あなたたちの神はまことに神々の神、すべての王の主、秘密を明かす方にちがいない(2:47) と、真実に触れたと感じたのでしょうか。